

IMMULITE2000Xpi を用いた高感度ワイドレンジ試薬「アラスタット 3gAllergy」の基礎的検討

オリトン IgE「ケミファ」とアラスタット 3gAllergy の比較検討

○須川 祐貴,黒崎 明彦(株式会社 群馬臨床検査センター)

〔初めに〕

このたび当施設はアレルギー検査における測定試薬をオリトン IgE「ケミファ」からシーメンス「アラスタット 3gAllergy」に変更するにあたり、導入に向けた基礎的検討を行い、若干の知見を得たので報告する。

〔試薬及び機器〕

現行法

試薬：オリトン IgE「ケミファ」総 IgE 及び特異 IgE

機器：株式会社エイアンドティ製 MI01

新法

試薬：シーメンス「アラスタット 3gAllergy」（以下アラスタット）

機器：シーメンス社製 IMMULITE2000Xpi

〔試料〕

検査済み受託検体、既知コントロール試料

〔方法及び結果〕

1) 同時再現性：TIE、SPJ コントロール 2 濃度を各 10 回測定し、3.51~4.49%(TIE)、3.22~4.15%(SPJ)の変動係数 (CV%) を

得た。

2) 日差再現性：TIE、SPJ、ヤケヒョウダニ (D1) コヒョウダニ (D2) アルテルナリア (M6) コントロール 2 濃度を 8 ~ 10 日間重複測定し 3.62~6.24%(TIE)、4.33~6.60%(SPJ)、3.52~4.09%(D1)、2.12~3.64%(D2)、2.75~3.95%(M6)の変動係数 (CV%) を得た。

3) 相関：当施設にて測定する 36 項目において 2 機種間の相関をとり(N=9~84)クラス 1 以内一致率 70~100%、陽性一致率 25.0~100%、陰性一致率 33.3~100%の結果を得た。

〔まとめ〕

オリトン IgE とアラスタットの相関においておおむね良好な相関結果を示したが、いくつかの項目において 2 クラス以上の乖離を示した項目があった。またアラスタットは低値域のデータにおいて感度の良さを示した。さらに同時再現性及び日差再現性においては良好な結果が得られた。低値域の感度向上、測定可能範囲の広がりなどの面において現行法より優れており、日常検査に有用であると考えられた。